

十八

日本海の波の音 間垣が奏でる風の音



「冬になると、海からの風が、能登外浦の海岸を吹き抜けます。生活の知恵から生まれた間垣…。冬の季節風や波しぶきから、暮らしを護ります。厳しくも心優しい能登の冬が始まります。」



かいせつ



輪島市町野町曾々木一帯の海岸は、窓岩に代表される奇岩が豪快な海岸美をつくる景勝地です。国の名勝および天然記念物でもあり、曾々木を語らずして奥能登の美は語れないと言われるほどの景観には自然の妙が凝縮されています。特に、厳冬期に波が岩礁に繰り返したたきつけられて白い泡状となり宙を舞う「波の花」の美しさは感動的ですからあります。打ちよせる大波が、曾々木海岸をつくり、遥か遠くからきこえる海鳴り、暴れ狂う大波の音は冬の日本海そのものです。また、外浦海岸一帯では、海から吹く強い季節風を防ぐために生まれた垣根の一種「間垣」が見られます。間垣の材料は自生する真竹で、葉をつけたまま使用し、幾重にも重ねます。日本海を眼前に暮らす人々の生活の知恵であり、吹き付ける強風で枝や葉がぶつかり合う乾いた音や、間垣を吹き抜ける風の音もひととき甲高く響きわたります。